

ふれあい

平成23年10月 第304号
大代地区コミュニティ推進協議会
(広 報 部)

事務局：大代地区公民館
TEL080-5064-9319

掲載目次

- 平成23年度総会を終えて 1
- 震災について 3
- 史跡巡りウォークラリーの開催! 4
- 今年初めての山紀行 2
- 大代の歩み (三十九) 3

平成二十三年度総会を終えて

大代地区コミュニティ推進協議会
会長 熱海 五郎

東日本大震災で多くの区民の皆様が被災されたことに対して心よりお見舞い申し上げます。

大代地区コミュニティ推進協議会の定期総会を九月十七日(土)に実施し、平成二十二年事業及び収支決算、平成二十三年度の事業計画及び収支予算案、その他、規約の一部改正、役員の変更があり、それぞれ原案のとおり承認されました。その後、研修発表及びアウトソーシングの今後についてのお話しがありました。今年度は、震災の影響で、例年より五ヶ月遅れての開催となりましたが、事業についても例年までの内容を一部変更して実施する予定です。

公民館の施設使用は、現在電源がないことから、体育室及び図書室などの使用が制限されております。早急に復旧するよう市政に申し入れておりますが時間が必要とのこととです。

住民の皆さんには、大変ご不便をかけておりますが、一層の努力をしてコミュニケーションの場所となるようお願いしておりますので、ご協力をお願い致します。

今年度の推進事業及び平成二十三〜二十四年度の役員及び事務局職員(公民館職員)の紹介を致します。

○ 推進事業

・ 広報部

広報紙「ふれあい」の毎月発行(震災により、四月〜六月号中断、七月号から再開)

・ 体育部

大代史跡巡りウォークラリー

十月二十九日(土)、雨天の場合は十一月

六日(土) 予定

・ コミュニティ推進部

新年を祝う会

平成二十四年一月十四日(土) 予定

・ 環境美化部

震災に伴い、担当事業なし

○ 平成二十三〜二十四年度 役員

会長 熱海五郎

副会長 渡辺正平

副会長 白浜宣子

広報部長 佐藤聰子

広報副部長 北区 佐々木けさよ

環境美化部長 南区 荒木慶蔵

環境美化副部長 南区 熊井輝雄

体育部長 南区 針生吉治

体育副部長 東区 伊東 泰

コミュニティ推進部長 東区 藤原昭雄

コミュニティ推進副部長 中区 木村好男

監事 東区 佐藤捷逸

監事 西区 後藤重子

○ 事務局職員(公民館職員)

事務局長 角田三雄

事務局員(書記) 及川清人

事務局員 佐々木民雄

事務局員

高橋秀秋

事務局員 (会計)

菅原弘美

地区の方々とのふれあいを大切に、一生懸命努めて参りますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

今年初めての山紀行

大代東区町内会

会長 三浦 徳男

今年度、町内会で計画した各事業を震災により自粛してきましたが、六ヶ月も過ぎたことから、震災を離れた奇稿もいのではないかとの思いで書いてみました。

震災から四ヶ月が過ぎたある日、突然電話がかかってきました。相手は、いつも山に誘ったり誘われたりしている相棒からでした。「もうそろそろいいんじゃないですか。仕事も忘れ、疲れもとれるし、行きましようよ!」と誘いの電話でした。そういえば三月の震災から、毎日が何かと忙しく、山登りを趣味としている自分としては、例年遅くても四月には、新緑を見に山へ行っていました。所属している山岳会でも、半年は山行を中止していた事もあり、山々にはすつかりご無沙汰していました。そこでそれじゃあと思い、予定表を見ながら行くことを約束して、早速一人で足慣らしを兼ねて泉ヶ岳に出かけました。次の週の土曜日、相棒と一緒に、残雪の多く残るお花畑の中、天気にも恵まれた鳥海山へ一泊で登って来ました。そして、またまた次の週には、豪雨で被害が出ている新潟県の胎内市の登山口から入

る飯豊連峰に三泊四日の行程で山に登り、三週連続まとめ歩いてきました。

飯豊連峰と朝日連峰は、標高二千級とアルプス程の高さではないが、東北では一、二位を競う山並みと豪雪の山として知られています。豊かな水は深い谷を削り、山には深く凹地になったところや急な登りが何箇所も存在し、また距離も長いことから、登山をするにはある程度時間がかかる山々です。相棒の仕事の都合もあり、金曜日の夕方に出発し、奥胎内登山口に着いた時には既に十時を過ぎていました。その日は、車の脇のテントで寝ていましたが、もの凄い雨で起こされ、登れるのか心配でなりませんでした。しかし、出発する五時半頃には雨もすっかり上がっていました。駐車場から登山口までは、ダム工事のため車は入ることができず、一人300円を出してワゴン車を利用し、他の六人の女性グループと乗り合わせて送ってもらいました。飯豊は石転び沢の雪渓や飯豊本山(二〇五一)と大日岳(二〇二八)・飯豊連峰で一番高い山などは何度か登っていますが、今回の「足の松コース」は初めてでした。いよいよ登山開始、今回の高低差は一千九十三メートル、登り約六時間、食料二日分を背負って出発しました。急勾配の連続する登山道を登って五時間程で尾根に到達し、遠くに小屋が見えた時はホッとひと安心しました。その後六時間をかけ梅木(タモギ)小屋に着きました。今回は梅木小屋に二泊するので午後はのんびりと休養し、散策しながら今が盛りと咲き誇るニッコウキスゲ、キキョウやクルミなどなど咲き誇っていた花々を写真に収め

ました。夕食後、夕日が沈む景色の中で小屋の管理人さんと雑談などで過ごし、早めに寝袋に入りました。翌三日目は、四時に起きて朝食を取り、五時に出発、今回の目標とした杵差(エブリサシ)岳(一六三六・四)まで往復六時間掛けて歩き、小屋に戻ってから昼食を摂ることにしました。食事後休むことなく、自分ひとり何十年前か前に来たコースを、覚えていられるかも知れないとの思いから門内岳(一八八七)まで往復し、五時過ぎに小屋に戻ってきました。小屋に泊まっている方は、自分たちの他、昨日は十人、今日は六人と少なかったのですが、皆さんで思い思いにあの山この山の話聞くことができ、楽しい時間を過ごすことができました。そして四日目の下山する日、天気は良くルンルン気分ですり始めましたが、何箇所か危険なところがあり慎重にゆっくりと時間を掛けて登山口に戻ってきました。しかし、この日は月曜日なのでワゴン車の運行はなく舗装された立派な道路を一時間程かけて歩き続け、ようやく駐車場に着くことができました。駐車場の近くに奥胎内ヒュッテがあり、そこは温泉でしたので、四日分の汗を流し、昼食を済ませてから出発しました。帰り道は、国道一一三号線に出て小国町を経由し、山形からは高速バスに乗って、夕方六時過ぎ無事自宅に着くことができました。天気は良かったし、一昨年と昨年、山形側の倉手山(九五二五)と新潟側の二王子岳(一四二〇・三)に登った山で見た杵差岳に、いつかは登ってみたいとの思いがこんなに早く実現するとは、本当に相棒のお陰と感謝しています。

“山とは、いくら辛くともまた行きたいと思わせる不思議なものを持つているんですね。”

震災について

大代地区婦人防火クラブ

会長 後藤 重子

三月十一日の東日本大震災から半年が経過しました。誰もが予想し得なかった大津波で多くの方々が被災なさいました。大代地区においても各地区指定の避難所に避難されたことと思います。大代西区では、東小学校に避難された方もおりましたが、近くの小野屋ホテルに避難された方々も多数おられました。ホテルのご厚意で、電気のない中、カセットコンロでお湯を沸かし、カップ麺を用意して頂いたときには、皆さんホッとした様子でした。しかし、その後、JX日鉱日石の爆発事故が発生し、多賀城駐屯地へ再度避難しました。隊員さんの配慮ある誘導により建物の中に入れてもらいましたが、全員の移動が終わったのは、午後十一時を過ぎていました。

駐屯地には、次々と他地区の被災された方々が避難して集まってきました。その後、自衛隊が災害対策本部になるとのことで、全員各避難所に移動していきましました。東小学校を始め各避難所では、各区長をリーダーとして有志の方々によって炊き出し、夜間の見廻り等を、自分の家を後回しにして地域の方々のために尽くしておられました。この震災で、「自助」「共助」の大切さを身をもって知らされた

のではないのでしょうか。この震災で得た教訓を基に今後、自分自身の糧にしていきたいと思っております。(婦人防火クラブの方々も各避難所においてお手伝いをして参りました。)

婦人防火クラブの二十三年度の行事と致しまして、消火器及び粉の交換、使用期間が過ぎて使用不可能になったものの対応を十月中旬頃に予定しております。また、火災警報機の未設置の方々への設置の促進を進めて参りたいと思っております。微力ながら皆様のお力になればと思っておりますので、気軽に声をかけてください。

皆様と笑顔で向き合えるよう、一日も早い復興を願っております。

大代の歩み (三十九)

大代南区 渡邊 巖

慶応四〇明治元(一八六八)年十二月十二日、明治政府は仙台藩に二十八万石を下賜した。藩は一応再興されたのである。

それは曾ての六十二万石から、一関藩の三万石と常陸・下総の飛地二万石を差し引いた残りの約半額に相当する。削減された此の旧仙台藩領には戊辰戦争後に新しい県がつくられた。

その後、明治二(一八六九)年六月の版籍奉還、明治四(一八七二)年七月の廃藩置県など、明治新政府から発布される数々の命令を切り抜けた多賀城地域の村々は、新仙台藩領に入っていたので、政治のやり方にも新・旧を通じた連続性は一応保たれ

たから、他地区のような不安は多くはなかったのである。

ところが維新を迎えても武士の身分を続けた者は、すべて新しい仙台藩領へ移住を迫られる状況になった。

このような郡村居住の武士がすべて城下仙台へ移ることは、折からの凶作と相俟って「餓死者」を招く恐れもあった。

そこで政府は、郡村に残りたい希望を持つ武士にはその身分継続は認めず、農民自身として帯刀などの特権を捨てる覚悟と、田畑の耕作や養蚕の励行という生業を持ち貢租負担の義務をも課した。いわゆる帰農政策である。しかし多賀城地域では帰農ではなく、城下移住の武士達が帰農村を認められたのは、廢藩置県の後である。

明治二(一八六九)年二月、新仙台藩は従来の村役人の名称を次のように改めた。

旧役名 (俗称含む)	新役名
大肝入 (大庄屋)	郡長
肝入 (庄屋)	邑長
検断	坊長
組頭	里長
五人組頭	保長
徒者締役 (悪戯者)	捕手

続く

史跡巡りウォークラリーの開催!

大代地区コミュニティ推進協議会

体育部長 針生 吉治

大代地区コミュニティ推進協議会体育部から、大代地区史跡巡りウォークラリー大会のご案内をいたします。

『ウォークラリーとは?』コース図に従い、問題を解決しながら目的地を目指します。勝敗は、タイム得点と課題得点の合計で決まります。設定時間より早過ぎても減点がなく、誰でも気軽に参加できます。

日 時 十月二十九日(土) 午前十時から

(雨天時は十一月五日(土)へ延期)

集合場所 大代地区公民館前

募集内容 一般コース(5キロ・小学生以上)

10組

ファミリーコース(3キロ) 10組

(参加人数は、1組2名から5名程度でお申し込みください。年齢制限はございませんので、いずれかのコースをお選びください。)

参加費 一組500円

申込 大代地区公民館内事務局まで、直接または電話でお申し込みください。不明な点についてのお問い合わせも受け付けております。

申込締切 十月十七日(月)応募者多数の場合は、先着順となります。

お問い合わせ 080-5064-9319

(公民館の固定電話は、都合により不通となっております。)

ふれあい短歌

大代西区 藤田 遊子

俳聖の尋ねし石碑地に埋もれ 流す涙に菖蒲ぬれ果つ
平成の津波おそひし陸奥の 末の松山波ぞ越さざる
なでしこを育てし母は語らずも 破顔一笑大勢集む

ふれあい俳句

大代西区 藤田 遊子

ジョギングの 我を励ます ねむの花
店前の ゴウヤは姑の 顔に似て
暮れてなほ ひぐらし鳴くや 兜太句碑

生活情報

“慌てて契約しない!屋根の修理サービス―震災に便乗した悪質な勧誘に注意”

・ クーリング・オフしたにも関わらず、解約を請求される。↓訪問販売で契約した場合には、クーリング・オフができます。

・ 「無料で応急処置をする」と勧誘しているにもかかわらず、有料の工事を勧めるといふ異なる対応をする。↓その場ですぐに契約しないこと。

詳しい工事内容を説明されないまま契約させら

れる。↓工事内容や契約金をしっかりと確認しましょう。

お知らせ

○ 平成二十三年度狂犬病予防注射について

十月四日(火)午後一時から午後二時まで大代地区公民館駐車場において実施されます。また、登録申請についても受け付けております。

○ さざんか号の巡回について

移動図書館さざんか号が十月十二日(水)午前十時から十時三十分まで大代地区公民館駐車場に来ますので、ご利用ください。

○ 大代地区の行政区別世帯数及び人口について

H23. 8. 31 現在

行政区	世帯数	男女合計
大代東	340	966人
大代中	301	739人
大代西	277	751人
大代北	115	348人
大代南	573	1,526人
合計	1,606	4,330人

※ 編集委員より、広報紙「ふれあい」の投稿記事募集のお願い!

地域に役立つ情報や地区の人にお知らせしたいこと等がありましたら、記事をお寄せ下さい。お待ちしております。